

ごあいさつ



札幌市農業協同組合
代表理事組合長

軽部 幹夫

日頃、みなさまには格別のご愛顧をいただき厚くお礼申し上げます。

JAさっぽろは積極的な情報開示を通じて経営の透明性を高め、当JAに対するご理解を一層深めていただくために、令和元年度の事業内容に関するディスクロージャー誌『JAさっぽろディスクロージャー2020』を発行いたしました。みなさまが取引金融機関を選択する際の判断材料として、また、当JAの地域貢献活動への取り組み、業績の推移などをご理解いただくための一助として、ご一読いただければ幸いです。

●JAを取り巻く情勢

国内外の政治・経済の不透明感、時代は平成から令和へと変わり、欧州連合(EU)との経済連携協定(EPA)やTPP11、更には日米貿易協定の発効など、日本はこれまでにない急速な市場開放に直面しております。

また、農協法の改正・規制改革の対応、とりわけ、まだ底の知れない超低金利政策により、他業態との競争は激化し、運用利回りの低下や共済事業における収入の減少などJAの収益構造は大きな転換期を迎えております。

JAグループに対しては、国産農畜産物の安定供給など、国民生活に不安が生じることがないように総力を挙げて取り組むことが求められており、組合員や地域のみなさまの暮らしにも影響を及ぼしている新型コロナウイルス感染拡大への対応、更には、持続可能な開発目標(SDGs)など、JAグループをはじめとする協同組合の果たすべき役割への期待が高まっていることも事実であり、まさに今日の難局をこれから乗り越えていかなければなりません。

●事業実績の状況

管内の農業は、令和元年度は春先の融雪も早く、播種・定植作業は順調に進みました。その後、干ばつの影響を受けた作物もありましたが、全般的に大きな災害もなく、天候にも恵まれ、農産物は総じて豊稔の年となりました。

当JAの基幹作物である玉葱は全道的に豊作基調となりましたが、転じて市場相場、販売価格は低迷気味となりました。

そ菜につきましては、5月から7月にかけての高温の影響により、市場価格が一部の野菜を除き、総じて前年を下回る品目が多く低調のまま推移したことにより、販売品取扱高は1,777,918千円(計画対比88.2%)となりました。

信用・共済・相談事業につきましては、長引く金融緩和政策など、厳しい事業環境が続いておりますが、組合員や利用者のみなさまのニーズに応じた積極的な提案や相談に努め、それぞれ計画を上回ることが出来た結果、事業利益では648,138千円となりました。

●みなさまへのメッセージ

当JAは、信用事業等を取り巻く情勢や農協改革への対応などを踏まえ「組合員の所得向上」、「地域における役割の発揮」、「安定的な経営基盤の確立」を重点施策とする第四次中期3ヵ年経営計画をスタートさせ、持続的な経営基盤・財務基盤の構築に向けて、経営の効率化・合理化に取り組んでおります。

引き続き、役職員一丸となり「信頼されるJA」の実現を目指して、協同組合の価値の創造に総力を傾注してまいりますので、組合員・地域のみなさまには、なお一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和2年7月